

ホッケーの場合、自分で車椅子を動かせない患児は電動車椅子でもできる方法やルールを考えたり病室でもできるよう板で枠をつくり、その枠の中でできるやり方を考えるばかりでなく、車椅子上でも扱える軽く使いやすいストックを考察した。

砂遊びの場合、古い机を改良し、その上に砂をおき、車椅子児は車椅子に乗った状態、歩行児は立った状態、または椅子に腰をかけた状態でも砂遊びができるようにした。

レクリエーション活動をした結果、次のような成果を得た。

1. 連帯感が深まり、協調性もつちかわれた。
2. 気分転換となり、情緒が安定してきた。
3. 患児自身がレクリエーションをやりやすいように変えていくようになった。

課題として、レクリエーション活動に対する心理的態度の把握（自発性・個性・興味・関心・充足感・拘束性・満足感等）や生活時間を質的側面から考察し、もっと根底に立って、筋ジス児ができるレクリエーションには何があり、何をどう工夫すれば、それが可能になるか、例えば、筋ジス児の能力や障害の程度に応じてのレクリエーションの設備改善・器具・ゲームの考察及び改良などの問題が今後に残されている。

## 17) 成人 PMD の作業療法に関する研究

国立箱根療養所

古内文夫 大木啓子  
久保義信

作業療法はこれを行うことにより、身体・精神面の治療の効果を期待するものであるが、進行性筋ジストロフィー症では身体面の治療効果はあまり期待できない。また従来一部で行われている小児の PMD の作業療法と異なる面も多い。そこで私どもは、国療箱根病院に入院及び Day Care でおこなっている作業療法について検討を加えた。

まず織物作業では、下肢の筋力の低下により、足ぶみ式のものを使用困難の場合が多いので卓上織材が中心となる。また上肢の近位筋の筋力低下のため、スリングまたは Feeder を使用することにより効果のある例がかなりみられている。また、刺しゅうもケースにより非常に効果のあることがある。

木工作業は一般の作業療法として非常に多く用いられているが、PMD では、初期では適応となるが、進行するとあまり行えず、わずかに Sanding などが適応となるのみで、この際スリングなどを使用すると行い易い。

粘土作業は既に小児の PMD に、一部の施設で用いられているが、成人の PMD でも非常に有用である。しかしこれは心理的なものが主要な効果となる。

手工芸作業、従来、小児の PMD にも多く用いられている。私どもが成人の PMD に用いて効果を

あげているものは、モザイク・革細工・組紐・刺しゅう・紅細工などである。

ゲーム療法では駒ゲーム（チェス・将棋・碁など）、カードなどが効果がある。

その他、版画・絵画・習字なども好まれるものである。

種々のA D L動作も患者の障害度に応じて行っているが、これについては更に検討が必要である。

## 18) DMP 児の社会性 再春荘におけるボランティア 活動の実態と問題点

国立療養所 再春荘

末 竹 寛 子

DMP 児の社会性を考えるとき、まず、考えなければならないのは彼らの置かれている状況である。肉親から離れ、長期療養を余儀なくされているDMP 患児の生活空間と对人的要因は、かなり限定されている。（厚生省医務局編 「進行性筋萎縮症と療育」参照）こういう状況の中で、彼らの社会性を向上させるためには、頻りに外へ連れだしてやるのが一番良いのだが、ショッピング・遠足・旅行などの外出、外泊の回数には限りがある。また、彼らをとりまく職員も、仕事の忙がしさから、対話不足となり、そう、社会の息吹きを吹きこめるわけではない。友人・知人のつながりが薄い彼らにとって、ここに、ボランティアの役割が大きいと思われる。

この2年半の間に、再春荘には、大学、工専から、人形劇サークル「青い鳥」、フォークグループ、マンドリンクラブ、放送研究会、ボランティアグループ「あすなろう」、ロックグループ、高校生としてレオクラブ、社会人や主婦としては、「熊本を愛する青年の会」、「婦人ボランティアの会」、キリスト教会員など、約150名ほどのボランティアがはいる、子供達に楽器の演奏を聞かせたり、人形劇をしたり、もちつき、話し、いろいろなゲームをしたりという活動をされている。

次に、ボランティア活動の問題点だが、最近、ボランティアの方から、「脱ボランティア」という考えが起こってきて、つまり、自分達は、行政の立ち遅れの肩がわり、または、尻ぬぐいをしていのではないかという批判とともに、自分達は相手に善意の押し売りをしていのではないかという反省も生まれてきているが、私達も、ときとして、そういう感がないわけではない。というのは、ボランティアがきるといので、プレイルームなどに、子供達を集めるわけだが、子供としては、せっかくの日曜に自分達のしたいこともあるわけで、さて、演奏が始まってみると、クラシック的なものが多くて、歌謡曲、フォーク、ロックなどが好きな子供達の趣味と合わず、子供達は後の方で「きつかね」とか「おもしろくないね」とか、こそこそいっている。こうなると、子供は苦痛だし、職員とボランティアは、子供をはさんで善意のすれちがいということになる。

そこで、ボランティアというのを、「奉仕性」を強く意識せずに、単なる友人・知人の延長と考え

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

作業療法はこれを行うことにより、身体・精神面の治療の効果を期待するものであるが、進行性筋ジストロフィー症では身体面の治療効果はあまり期待できない。また従来一部で行われている小児のPMDの作業療法と異なる面も多い。そこで私どもは、国療箱根病院に入院及び Day care でおこなっている作業療法について検討を加えた。